



小3の娘 読書に没頭し過ぎ?

小学3年の長女が読書好きで、本を読みだすと周囲が見えなくなります。朝起きると電気もつけずトイレにも行かず、本を読み始めます。学校の読書の時間には自分の世界に入り込み、面白いのか急に笑いだすこともあるそうです。

「休み時間も外で遊ばず読書が多い」と先生に聞きました。本に親しむのはいいと思いますが「限度があるのでは」とも感じます。

勉強は国語の読解問題だけはきちんとでき、算数や漢字は授業についていけていますが、体育は苦手なようです。いろいろなことに興味を広げてほしい年頃ですが、個性として見守っていてもいいのでしょうか。

先生、教えて!

子育て・教育相談コーナー



仙台市青葉区

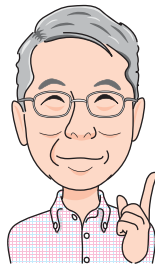
30代・主婦

からの質問

●回答してくれた人

本間 博彰さん

ほんま・ひろあき 静岡市出身。医学博士。宮城県子ども総合センター所長などを歴任。東日本大震災後は被災地の子どもへのケアにも従事。2018年から星総合病院(郡山市)精神科部長。



このコーナーは保護者からの子育てや教育についての相談を募集しています。メール、郵送のほかQRコードから応募できます。

▷記入事項 氏名、年齢、職業、住所、家族構成、電話番号、メールアドレス

▷宛先 〒980-8660 河北新報社
こども新聞係。メールアドレスkyopro@po.kahoku.co.jp



幼児・児童期は目に見える物事を通して身の回りの世界を探索する時期でしたが、小学3年頃になると他人の心の世界や抽象的で想像的な世界に関心を向ける力が育ってきます。こうした知的活動の発達には、言語の力が大きな推進力になります。

読書に魅了されることは作者の描く世界を通し、視野を広げて思考を開放していることになります。自分よりはるかに物知りの作者の肩の上から、世界を眺めていることにもなります。

言語には、人間が成長発達する重要な力が込められています。前の世代の人々が培った文化そのもので、自分を取り巻く世界を把握し、認識するための知恵が組み込まれています。子

知的成長の糧見守って

どもは言語の持つさまざまな力を身に付けることで発達をより確かにし、言語を通して自分を認識して周囲の世界も理解する力を養っていきます。

この子は作者の言語が描く世界の深遠さや、魅力に引きつけられているのかもしれませんが。国語力は読書で磨かれます。その国語は全ての学びの根底を成します。算数も数字という言語を使い、自然のことわりを学ぶ教科です。大好きな読書がいつか役立つと思います。

親としては無難にいろいろなことに興味を広げてほしいと思うものですが、この子にとっての読書は知的活動を幅広く発展させる意味があると見守っていいのではないのでしょうか。